学長あいさつ

Message from the President

秋田大学はこれまで（1）世界・地域を見据えたリーダーを育む（2）世界・地域を視野に未来を創造する（3）地域と共生し豊かな社会を創る（4）地域に根ざし世界を目指す、というビジョンに沿って歩んでまいりましたが、その基礎となるものは世界と地域に貢献する最先端の研究、およびその目的にアプローチする研究が可能な人材の育成であります。社会から求められている大学の使命を果たすために、秋田大学では最先端の教育研究を強く意識した体制の地盤を整えており、世界を視野に入れた4つの学部を構えております。そこには、私たちが育んできた「歴史」と「誇り」があります。

教育文化学部。ここには、小中学生の学力日本一という秋田の教育の支柱となる教員を養成してきたという実績があります。学校教育課程においては、きめ細やかな教育プログラムに加え、伝統に育まれた教員養成を展開しています。教員は次世代を担う皆さんを良き「後継者」として育てて世に送り出し、時代を繋いでおります。地域文化学科では、何事にも対応できるための「教養」を身につけ、柔軟な思考を育むことを通じて、不確実性ともいえる時代に臨む皆さんが、グローバルな見地からローカルな課題を解決できる能力を磨くことができるよう支援しております。

国際資源学部。私たちが暮らす秋田は、国内では有数の資源を誇る地でありました。そして、そのフィールドは今、世界へとつながっております。国際資源という学部名に込められた思いは、ここにあります。鉱山専門学校に始まり、鉱山学部、工学資源学部で発展させてきた、世界に誇れる研究成果を蓄積し、日本の大学の中で唯一、資源学の総合教育研究体制を敷いています。また、海外において分校や研究室を展開し、3年生になると、全員が4、5人のグループに分かれ、海外資源フィールドワークに参加します。他大学に進学した高校の同級生が、生涯行くことはないであろう地にも赴きます。資源学の現場。日本の最前線を世界で知る機会を通じて、皆さんは学問が生きていることを実感できるはずです。

理工学部は、資源系の学部であった工学資源学部から理学系の要素を取り入れた学部として発足しました。誇るべき研究成果が続々と秋田大学の研究室から発信されております。例えば、メタルナノコイルからの複合材成形。この研究は複合材の軽量化・低コスト化を目指すものです。次世代航空機の機体の材質への応用が期待され、世界が注視しております。さらに、IoTやAI、ロボットなどの第4次産業革命の中心となる技術を視野に入れた理工学教育の改革とその分野をリードできる研究体制を構築しているところであります。

医学部においては、世界に発信できる教育研究の成果と地域医療への貢献が挙げられます。特に、地域医療への貢献としては、これまでも秋田県の医療の最後の砦としての役割を十分果たしてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症への対応については、秋田県のleading instituteとして、感染拡大の抑制に大きな役割を担ったと自負しているところであります。秋田大学の医師国家試験の合格率は例年、全国の医学部でも上位にランクされております。きめ細やかな教育の証左といえましょう。保健学科においても、人を支える挑戦を続けており、看護師や保健師、助産師のほか、理学療法士、作業療法士のすべての国家試験で高レベルの合格率を維持しております。

また、地域に貢献する活動にも力を注いでいます。秋田県の地域活性化へのさらなる寄与を目指す地方創生センターは、地域協働と、地域産業研究の2部門から成ります。地域協働部門では県内3か所に設置した分校を拠点に、地域の人たちと秋田大学の学生、教職員が一体となり、秋田の良さを再認識することを目指した活動を行っております。また、将来の夢の実現の一歩とするための教師ミニミニ体験と称した、教員志望の啓発活動等、故郷の誇りを広げていく試みを続けております。地域産業研究部門では、秋田県の重要政策にリンクした研究事業を展開。県内産業の育成により、地域課題の解決にも大きく貢献できることと考えております。また、地域防災減災総合研究センターでは、近年増加傾向にある自然災害と複合災害に対し、秋田県の実情に合った防災対策に係る調査・研究を分野横断的に行うとともに、その研究成果を地域に還元し普及啓発を図ることにより、地域の防災力向上に寄与しております。さらに、グリーン社会の実現に寄与していくための研究や人材育成についても大学全体で取り組んでおります。内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業に採択され、新世代モーターによる航空機の電動化システム開発などの体制を整備し、研究開発と人材育成を推進するため、秋田県や秋田県立大学と共同で秋田大学電動化システム共同研究センターを設置した

ところであります。その他、秋田県が注力している洋上風力発電や余剰電力の利活用など再生可能エネルギーに関する領域にも重点的に取り組んでいく所存であります。

さらに、医理工連携をより効果的かつ力強く推進するため、医理工連携夢を語る会をリニューアルし、医療・介護機器や医薬品の開発等に加え、健康食品開発にも目を向け、産業の創生や振興に向けた取り組みを進めているところです。また、秋田県は少子高齢化の最先端県であります。このような現象により引き起こされる合併症の予防・治療は解決すべき喫緊の課題であり、秋田大学の貢献が大きく期待されているところであります。高齢者医療に特化した研究拠点として、平成29年度に秋田県からの補助を受け、高齢者医療先端研究センターを設置し、高齢者医療の先端的な研究や地域社会学の知見を踏まえた学際的な研究を推進しているほか、昨今のコロナ禍における様々な影響による心身の健康への関心が一層高まるなか、産学官が連携した自殺予防活動を強化するため、秋田県からの補助を受け、自殺予防総合研究センターを設置し、全学体制で幅広く自殺予防研究に取り組んでいるほか、令和5年3月には、感染制御、感染分子疫学解析、予防戦略と対策を県内関係機関等と積極的に共有・還元しながら高レベル感染症対応医療人材を育成するとともに、感染制御ネットワークの「司令塔」として県全体の感染症対応基盤を強化するため、秋田大学感染統括制御・疫学・分子病態研究センターを開設しました。感染疫学研究とその社会的影響も含めた疫学研究、次世代シークエンサ等による病原体（ウイルス・細菌等）ゲノム解析や感染疫学解析、ホストの細胞や細胞内情報伝達レベルの病態生理解析を進め、将来的な感染症の予防と新規制御戦略や新規治療薬開発につながる臨床と基礎研究を統合的に進め、感染症対応医療人材、感染症研究者の育成を目指しております。

このように秋田大学は、オール秋田の中心としての役割を果たすべく活動しております。昨年度までは新型コロナウイルスの影響により多くの活動が制限されてしまいましたが、徐々に社会貢献活動を再開してまいる所存であります。

シームレスで行われる学部教育から大学院教育。そして明確なミッションを掲げた各センター。これらが「優秀な卒業生を社会へ、そして優れた研究を社会に還元する」という秋田大学の使命に応える礎といえます。日経HR「価値ある大学2018年版　就職力ランキング」において、企業が選ぶ「採用を増やしたい大学ランキング」で堂々の全国第一位に選ばれました。卒業生の「行動力」、「対人力」が高く評価されたものです。また、2021年10月発行の日経グローカル「大学の地域貢献度調査」において、総合ランキング全国4位となったほか、「THE日本大学ランキング2023」において、全国約800の国公私立大学中、61位という高位置を獲得できました。これらは、卒業生自身の努力の賜であることは言うまでもありませんが、それをバックアップする土壌が秋田大学にあることの証明であると、誇りに思っている次第です。

さらに最近では、ビッグデータの活用やIoTの普及、そして人工知能の発達によるSociety 5.0への対応が今の若者に要求されていることから、こういった新しい社会へ順応できる学生を輩出することが喫緊の課題と考え、令和元年の大学創立70周年を契機に、各学部において、この先10年の未来を見据えた改革を開始しました。その一つとして、新しい社会に貢献できる人材の育成を主眼とした新しい学部の設置並びに学部改組を積極的に進めることといたしました。新たな学部設置でありますが、これからはいかなる領域においてもビッグデータの解析を基礎として、それらを駆使しながら世の中の問題を解決する手法を身につけた人材の輩出を目的にするものであります。

世界中で猛威を振るった新型コロナウイルスの感染拡大もようやく落ち着き、コロナ禍以前の社会経済活動に戻りつつありますが、ロシアによるウクライナ侵攻など国際社会における複合的な要因による資源や食料価格の高騰や円安進行など、なかなか先行きの見通せない時代であります。秋田大学では、こうした不確実な未来に向け、自信を持って羽ばたいていける学生の教育、今、これが最も求められているとの認識から、「学生第一」をスローガンに掲げ、全ての教職員が、学生さんにきめ細やかな教育環境を提供し、知的好奇心を育んでいけるよう努力しているところであります。また、ウクライナ情勢に心を痛めながら注視している状況で、秋田大学も何か貢献ができないかという思いから、ウクライナの学生さんや研究者の皆さんにできるだけ教育研究の場を提供するため、海外の学生さんたちにも「学生第一」のスローガンを適用し、人材育成を行っていくことを決定のうえ受け入れを行い、令和５年４月現在９名のウクライナの学生さんが秋田大学で学んでおります。

先に、秋田大学のこれまでの伝統に起因した各学部の特色や大学改革等について述べましたが、このような危機に際し、我々は、新型コロナウイルスの収束やウクライナ問題終結後の世界、社会の将来をいち早く展望し、新しい世界、社会に順応できるように舵を取っていく所存であります。

最後に、秋田大学を「母校」とする我々は皆、優れた学生諸君を社会に輩出すること、そしてこの地（秋田）が輝きを増すことを期待しております。

国立大学法人秋田大学長　**山本　文雄**